

読書と言葉

経済協力開発機構(OECD)の学習到達度調査報告では、特に読解力の低下が新聞やニュースで大きく取り上げられました。また先日、財団法人総合初等教育研究所から小学校で学ぶ漢字がどのくらい身についているかの調査報告がされ、それによると、全体として前回調査(1980年)と比べ、漢字の読み書きの能力は落ちていないものの、珍回答として「電園地帯」「楽書き」(ともに回答の30%以上を占める)などが紹介されました。

読解力の低下を受けて、教育関係機関からはいくつかのコメントが出されましたが、その中に「読書活動に力を」があったことは記憶に新しいところです。

読解力について、学校の教員からは「子ども達にとってわからない言葉が多く、それが文や話全体をわからなくしている。」という声が聞かれます。しかも、わからないのは難しい言葉ではなく、以前だったら生活の中にあたりまえに存在していた言葉の意味することなのだそうです。「井戸」のない生活が当たり前になりつつある今、「つるべおとし」という言葉をイメージすることは難しいでしょう。報告にあった「電園地帯」も、日々たくさんの電化製品に囲まれ、青々とした田んぼの広がる情景を知らない子どもにとっては、しごく当然のように、もしかすると自信をもって書かれた字かもしれません。

ヘレン・ケラーは自分の手を流れる冷たいものの存在を意識して初めて「水」という言葉を知り、そこから多くの名詞を獲得しました。また、南京玉をつなげることがうまくいかずに考え込んだときに、手に書かれた「THINK」という言葉が経験と結びつき、心の動きや動作の一つ一つにも言葉があることを理解しました。その後、彼女が飛躍的に言葉を獲得し世界を広げていったことはご存知の方も多いでしょう。

考えてみますと、現在の子ども達は、あふれるほどの情報の中にあるものの、「言葉」に恵まれていないように思います。

身近な大人と一緒に夕焼けを見て交わす会話から、小さな虫を見つめて交わす会話から、そのほかにも、たくさんの人や物との関わりから子ども達は言葉を体験し、身につけます。また、絵や文字で表現された“本”を読むことから多くの言葉を体験することができます。マリー・ホール・エッツ『もりのなか』のモノトーンで描かれた森の様子にさまざまな遊びや色を想像したり、C・S・ルイスの『ライオンと魔女』に描かれた場面や人物、世界を想像したりすることは子ども達にとって言葉の体験です。レイチェル・カーソンは、その著書『センス オブ ワンダー』のなかで、「子ども達にとって経験が知識や知恵を生み出す種子だとしたら、情緒や感受性は種子を育む肥沃

な土壌であり、子ども時代はこの土壌を耕すときだ」といっています。読書は、まさに言葉の種をまき言葉を感じる感受性という土壌を耕す活動でしょう。

しかし、読書が言葉を学ぶため、覚えるためのものになってしまったら、本は子ども達にとって魅力のないものになってしまうでしょう。子どもたちにとって読書はお話の世界を十分に楽しむものでなくてはなりません。ポール・アザール(19~20世紀におけるフランスの比較文学研究者)の著書『本・子ども・大人』の中に「子どもたちはこう言う。ぼくたちに本をください、翼をください。...ぼくたちは、学校で教わることはみんなおぼえたいと思っています。でも、どうかぼくたちに夢も残しておいてください。」とあるように、楽しい読書が「学習のための読書」になりませんように。

子ども図書研究室講座

「子どもの本を選ぶ - 絵本を中心に - 」をテーマに、連続2回の研究室講座が開かれました。第1回は講師の松村雅子氏から、本の選び方のポイントとして次のことが挙げられました。

- ・わかりやすく簡潔な言葉ではじまるお話であること
子どもが世界に入りやすい
- ・絵は想像の世界に入りやすいものであること
色使いの工夫 画面展開の工夫
- ・行って帰るお話であること

そして、読み聞かせをする際にはゆったりとしたスピードで、子どもにお話が届くように読むことが大切とのアドバイスもされました。

第2回は講座生がグループに分かれ、「いちご」(福音館書店)・「クレリア」(セラー出版)・「いつもちこくのおとこのこ」(あかね書房)・「もりのなか」(福音館)・「あらしのよるに」(講談社)を、集団への読み聞かせ資料としてどうかという視点で検討しました。「年齢を選ぶ本だね。」「お話の結末がどうも...。」「読み聞かせるには読み手にテクニックがいる。」など、たくさんの意見が出され、勉強になりました。

理論だけでなく、実際の子どもの様子などが語られた先生のお話、受講生の情報交換、絵本を見る視点、連続2回の講座でしたが、多くの受講生に満足いただけました。

イベント・講座情報

静岡県立中央図書館特別講演会

日時：平成17年3月26日(土)

講師：柳田邦男(ノンフィクション作家)

テーマ：「大人こそ絵本を読もう」

問合わせ：静岡県立中央図書館 054 262 1246